

災害一般

弘化・嘉永の世情

大島直珍日記 嘉永七年「一八五四」一二月
此度大火珍敷事にて、京都も大に淋敷、商売人も渡世ニ困リ、其上異国船等にて万事不融通にて上下不_レ残困窮、悪舌ノミ、田舎等も同様六ヶ敷甚及_二迷惑_一、作物も格別出来間敷とも相見え候事（中略）天災之事人力ニ及不_レ申候事

寛喜大飢饉

民経記 寛喜三年「一二三二」四月六日
餓死に依る死人、道路に充滿す、哀れとすべし

猛暑の上洛

資勝卿記 孝亮宿禰 寛永三年「一六二六」五月二十八日
記 鴨脚豊秀日記
近日、炎旱、殊に甚し、民戸悉く憂う

早魃

風水害

公家邸宅の衰亡

皇年代略記 建保四年「一二二六」八月二十八日
大風、外記庁官庁已下顛倒す

市街の周辺地域への拡大

百練抄 建保五年「一二二七」一月十日
上皇（後鳥羽）、水無瀬殿新御所に御移徙す、是本御所去年大風洪水の時、顛倒流失の間、更に他所を点じ造営せらるる所なり

気候・気象災害一般

米価高騰と町民の困窮

日要記 天保四年「一八三三」
此節米高値に付、山城国在々百姓共米貯居候者有_レ之候はば、京都米商人共へ直段相對にて随分下直に可_二売出_一候、尤新米も取入次第、不_二貯置_一、早々可_二売出_一候

米価高騰と町民の困窮

事々録 天保五年「一八三四」
京師市中糧米には大根芋の類を飯中に焚入候て露米をつなぎ候者ども多く、餓死に至り候者も粗承り及び候

冷害・雪害

農業恐慌

京都市農会長松田庄五郎の昭和七年の年頭所感「京都市農会報」
米作は夏期の冷涼と日照の不足から平年作以下の不作で、（中略）昭和五年度の市内作付反別が三千九百九十町歩に対し、九万八千六百三十七石で、（中略）、平均反当り二斗五升の減少である。また、蔬菜の価格は米価の低落によつて他に収入を求むべく転換したる者ある為、蔬菜の生産過剰を来し、剩へ気候の温暖によりて増収と成り、加へて消費量少く、自然価格は低下するのみで、農家収入の激減を招致したものである。

公家邸宅の衰亡

百練抄 承久元年「一二一九」七月二十一日
辰の刻より大風、神祇官南庁・右近馬場の屋顛倒し了んぬ

橋梁の造営と河川の修理

百練抄 安貞二年「一二二八」七月二十日
風吹き雨沢う、洪水泛溢す、四条・五条等の末の橋流れ了んぬ、漂没の輩数輩と云々

安政・文久の物価上昇

大久保家文書 万延一年「一八六〇」十月
藪地又ハ梨子、柿其外之菓類を仕付て、其間々_江ハ大根蒔付相統罷在候処、右藪地之義先年より自然枯ニ付、漸此節立木掛、当年仮色ニ筈出生之折柄、五月十一日之強風雨ニ而不_レ残吹倒レ、勿論梨子・柿其外菓類も右十一日、猶又七月以來